

7月の建築鉄骨需要

6カ月連続マイナス

急回復の前年の反動減

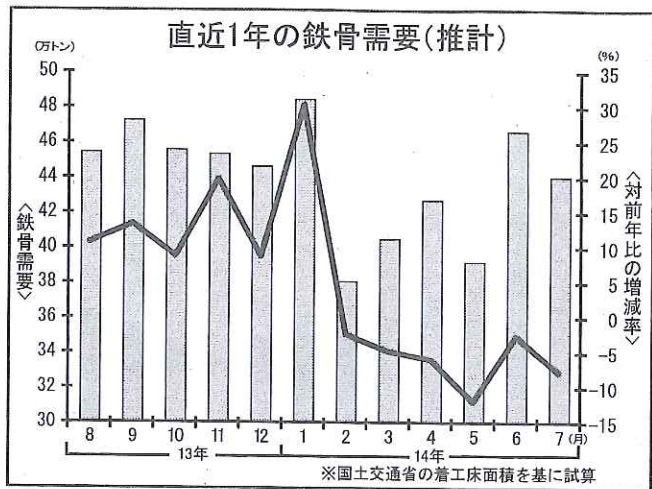
建築鉄骨の需要規模が前年割れの水準で推移している。国土交通省の建築着工床面積を基に試算した7月の推計需要は前年同月比7・8%減の44万6500㎡と2月以来6カ月連続のマイナスとなり、年率でも前年を下回る状況が続いている。急速に回復した前年からの反動が響き、構成比率の高い鉄骨（S）造の伸びが鈍っているため、秋口以降にも鉄骨加工会社（ファブ）の操業に影響を与える可能性がある。

主な構造別で見たとの1万2650㎡と動

減の42万8千㎡、鉄骨
鉄筋コンクリート（S）
R C造が58・2%増し、S R C造は3カ月

連続で拡大した。市場では技能者不足や資材価格の高騰などを背景に着工ペースが緩和。ファブ間では適正工期の確保や弾力的な出荷体制の維持に主

前年並みの市場観測が根強い。目先も「下期に上期の落ち込みを補う新たな需要が創出する見込みは少ない」（業界筋）一方、15年度前半にも首都圏を中心に着工が集中すると指摘が多く、単月では直近数カ月に準じる需要量も想定される。



鉄鋼新聞
9/3付